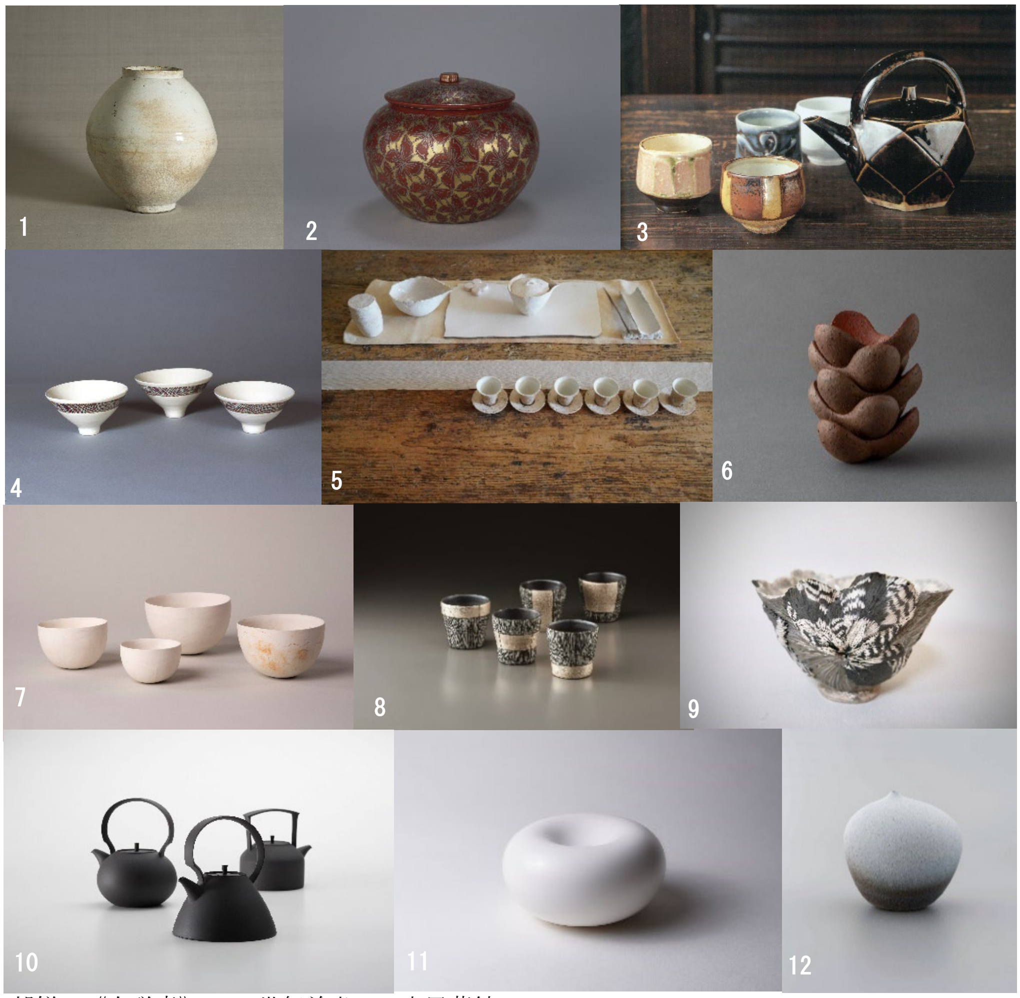
PRESS RELEASE **2025.7.11**



1 朝鮮　《白磁壺》　18 世紀前半　日本民藝館
2 富本憲吉　《色絵金銀彩四弁花文蓋付飾壺》　1956 年　兵庫陶芸美術館
3 河井寛次郎　《土瓶&湯碗各種》　1931-49 年頃　河井寛次郎記念館
4 ルーシー・リー　《鉢》　1951 年頃　兵庫陶芸美術館
5 安藤雅信　《泥釉シリーズ茶器揃》　2024-25 年
6 市野雅彦　《采器》　2019 年
7 内田鋼一　《White Bowl》　2018 年
8 清水剛　《刻紋銀彩向付》　2019 年　土岐市
9 新宮さやか　《蕚容 碗》　2025 年
10 駒井正人　《土瓶》　2020 年　撮影：Shugo Hayashi
11 田中雅文　《Layer.series CLOUD 5》　2018 年
12 打田翠　《心象》　2024 年　撮影：Masashi Kuromoto
※掲載作品が出品されない場合があります

MINGEI
The Museum of Ceramic Art, Hyogo 20th Anniversary Special Exhibition
ALIVE
―いま、生きている民藝―

土と語る、森の中の美術館
兵庫陶芸美術館
The Museum of Ceramic Art, Hyogo

PRESS RELEASE 2025.7.11

駒井正人 《土瓶》 2020 年
撮影：Shugo Hayashi

今からおよそ 100 年前、宗教哲学者の柳宗悦（1889-1961）によって提唱された「民藝（民衆的工藝の略)」。それは、日々の暮らしに寄り添うものに美を見いだすという、新しい価値観であり、提案でした。その対象とされたのは、用途に即してつくられた「手仕事」による生活道具。それは、近代化にともない、失われつつあるものでした。しかし、民藝が目指したものとは、手仕事をそのまま保護するというよりも、その精神を正しく受け取り、新しい生活スタイルに合ったものづくりへと導いていくことであり、何よりも「生活の芸術（アート)」という、私たちが心豊かに生きていくうえで欠かせないものを手放さないという、一つの哲学であったのではないでしょうか。

生活道具の中でも、特に使用頻度の高い「器（うつわ)」は、民藝の「現代性」を体現するものといえるでしょう。民藝では、名も無き職人の手仕事、つまり「無銘性」が唱えられたことで、ともすると、個人作家の美意識によってつくられたものを否定しているかのように思われがちですが、民藝の思想を深く理解し、その根幹を支え、現代へと橋渡しをしたのは、なんといっても、優れた創造性を持つ個人作家たちでした。その意味で、民藝はまた、現代において、実用品も手がける個人作家の存在意義を確かなものにしているとも考えられます。民藝は、技術でもなければ、スタイルでもない。そのこ

とをいま一度、考えてみたいと思います。
　本展では、富本憲吉（1886-1963）、バーナード・リーチ（1887-1979）をはじめとする当館の現代陶芸コレクションの核となっている個人作家の器作品を展観しながら、当時、先鋭的なモダニストでもあった柳が見つめた民藝の本質について、現代の視点から再考することを試みます。さらに、「いま、生きている民藝」の諸相について、現代の作家たちがつくりだす様々な作品を通して、いま、私たちが豊かで幸せであると思える暮らしと、そこに息づく「生活の芸術（アート）」について、思いを寄せる機会とします。

【出品作品と出品作家（生年順、敬称略）】
日本民藝館　朝鮮陶磁コレクション
富本憲吉（1886-1963）、バーナード・リーチ（1887-1979）、
河井寛次郎（1890-1966）、濱田庄司（1894-1978）、
ルーシー・リー（1902-1995）、上田恒次（1914-1987）、島岡達三（1919-2007）、
ハンス・コパー（1920-1981）、武内晴二郎（1921-1979）、
藤井佐知（1924-2015）、生田和孝（1927-1982）、森山雅夫（1940- ）、
市野茂良（1942-2011）、ボディル・マンツ（1943- ）、清水俊彦（1945- ）、
黒田泰蔵（1946-2021）、柴田雅章（1948- ）、ジェニファー・リー（1956- ）、
安藤雅信（1957- ）、市野雅彦（1961- ）、内田鋼一（1969- ）、清水剛（1975- ）、
新宮さやか（1979- ）、駒井正人（1980- ）、田中雅文（1982- ）、
打田翠（1983- ）

【展覧会の見どころ】
① 　大正時代末頃、柳宗悦が民藝という新しい美の価値観を見いだすきっかけとなったのが、李氏朝鮮時代（14 世紀末～19 世紀末）につくられた朝鮮陶磁です。そこに「人間の温かみ、高貴、荘厳」を感じ得たという柳の美意識を、日本民藝館所蔵の朝鮮陶磁コレクションを通して、見つめます。
② 　当館の現代陶芸コレクションの核となっている個人作家たちの器作品を一堂に展観します。富本憲吉、バーナード・リーチ、河井寛次郎、濱田庄司などのパイオニア世代から、その後継といえる作家たち、さらにはルーシー・リー、ハンス・コパーなど、器の概念を革新・拡張したヨーロッパの作家たちの作品も合わせて展示し、「生活に息づく芸術（アート）」としての可能性を再考します。
③ 　唯一無二の作家性を確立した個人作家たちがつくる器は、「いま、生きている民藝」を体現するものではないか、との問いを、現在、多方面にわたって活躍中の気鋭作家 8 名の作品を通して検証し、現代における手仕事の在り方や民藝の未来について考えます。

PRESS RELEASE **2025.7.11**

【展覧会概要】

会　　期：2025 年 9 月 6 日（土）～11 月 24 日（月・振休）
休 館 日：月曜日（ただし 9 月 15 日（月・祝）、10 月 13 日（月・祝）、11 月 3 日（月・祝）は開館し、9 月 16 日（火）、10 月 14 日（火）、11 月 4 日（火）は休館）
開館時間：10:00～17:00　※入館は閉館時間の 30 分前まで
観 覧 料：一般 1,300 円（1,000 円）、大学生 1,000 円（800 円）、高校生以下無料
・（　）内は 20 名以上の団体料金です。
・70 歳以上は半額になります。
・障害のある方は 75%割引、その介助者の 1 名は無料になります。
会　　場：兵庫陶芸美術館　展示棟　展示室 1 、2、4、5
主　　催：兵庫陶芸美術館、神戸新聞社
後　　援：兵庫県、兵庫県教育委員会
協　　力：丹波立杭陶磁器協同組合

【関連イベント】

記念講演&トークセッション
日　　時： 9 月 6 日（土）13:30～16:00（会場は 13:00）
第 1 部：記念講演「いまなぜ民藝か」　13:30~14:20
講　師：鞍田崇氏（哲学者、明治大学理工学部准教授）
第 2 部：トークセッション　14:30～16:00
登壇者：鞍田崇氏（同上）、安藤雅信氏、内田鋼一氏（いずれも出品作家）
コーディネーター：マルテル坂本牧子（当館学芸員）
場　　所：当館研修棟 1F　セミナー室
定　　員：110 名（事前申込制、先着順）
参 加 費：無料　※ただし、本展の観覧券（半券可）が必要です。

出品作家によるアーティスト・トーク
日　　時：11 月 8 日（土）13:30～（予定）
場　　所：各展示室
※参加作家は決定次第、当館ホームページにて発表いたします。

PRESS RELEASE **2025.7.11**

ワークショップ
「スリップウェアに挑戦！－白と黒の器をつくろう－」
日　　時：11 月 16 日（日）10:00～15:00（予定）
講　　師：当館陶芸指導員
会　　場：当館エントランス棟 1F　工房
定　　員：20 名（有料、事前申込制、応募者多数の場合は抽選）
応募締切：10 月 21 日（火）

当館学芸員によるギャラリートーク
日　　時： 9 月 20 日（土）、10 月 18 日（土）、11 月 1 日（土）、11 月 22 日（土）
　　　　いずれも 11:00 から 1 時間程度　※参加には当日の観覧券が必要です。

※各イベントに関する詳細は当館ホームページでご確認ください。

同時開催テーマ展
「丹波焼の世界 season 9」
開催中～2026 年 2 月 23 日（月・祝）
2025 年度著名作家招聘事業 特別展示「秋永邦洋－仮想の生命」
開催中～11 月 24 日（月・振休）

次回特別展
「丹波焼の美－田中寛コレクションを中心として－」
2025 年 12 月 6 日（土）～2026 年 2 月 23 日（月・祝）

【本展に関するお問合せ】
兵庫陶芸美術館
広報担当：企画・事業課　丸山　勝也（ﾏﾙﾔﾏ ｶﾂﾔ）
E-mail：Katsuya_Maruyama@pref.hyogo.lg.jp
展覧会担当：学芸課　マルテル坂本　牧子（ﾏﾙﾃﾙｻｶﾓﾄ ﾏｷｺ）
E-mail：Makiko_Sakamoto@pref.hyogo.lg.jp
〒669-2135　兵庫県丹波篠山市今田町上立杭 4
TEL：079-597-3961（代表）
FAX：079-597-3967
ホームページ：https://www.mcart.jp

PRESS RELEASE **2025.7.11**

【交通のご案内】

［公共交通機関をご利用の場合］

・ＪＲ福知山線「相野駅」下車後（大阪駅から約 50 分）
駅前からウイング神姫（路線バス）「兵庫陶芸美術館」
「こんだ薬師温泉」または「清水寺」行き乗車約 15 分、
「兵庫陶芸美術館」下車

※相野駅発バス時刻 9:33、10:15、13:10、15:45、16:45
土・日・祝は 10:47、11:36、13:41 が増便
（2025 年 7 月現在）

［自動車をご利用の場合］

・舞鶴若狭自動車道・三田西ＩＣから約 15 分、または丹南篠山口ＩＣから約 20 分
・中国自動車道・滝野社ＩＣから国道 372 号を東へ約 30 分
・阪神方面から国道 176 号を北上し、三田市四ツ辻信号を左折約 15 分
・駐車場無料（敷地内 普通車 58 台分）、大型可

兵庫陶芸美術館開館 20 周年記念 特別展

MINGEI ALIVE －いま、生きている民藝－

2025 年 9 月 6 日（土）～11 月 24 日（月・振休）

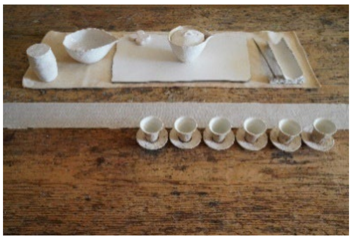
広報画像申込書

送信先　E-mail: togei@pref.hyogo.lg.jp　　Fax:079-597-3967

兵庫陶芸美術館 企画・事業課 広報担当宛

ご希望の画像番号にチェックを入れ、以下の項目をご記入の上、メールもしくは FAX でお送りください。

※読者プレゼント招待券は、写真を掲載し本展をご紹介いただける場合に限ります（最大 5 組 10 名まで）。

□1  安藤雅信 《泥釉シリーズ茶器揃》 2024-2025 年	□2 内田鋼一 《White Bowl》 2018 年	□3 新宮さやか 《萼容 碗》 2025 年
□4 駒井正人 《土瓶》 2020 年 撮影：Shugo Hayashi	□5 田中雅文 《Layer.series CLOUD 5》 2018 年	□6 打田翠 《心象》 2024 年 撮影：Masashi Kuromoto

【画像使用に際しての注意事項】

◆本展覧会の広報用としての使用に限ります。

◆画像の掲載には、各作品のキャプションを明記してください。

◆画像の加工（作品の切り抜き、着色、文字載せ等）はご遠慮ください。

◆基本情報、画像使用の確認のため、ゲラ・原稿の段階で「企画・事業課」までお送りくださいますようお願いいたします。

◆ご掲載媒体、もしくは URL を「企画・事業課」までご送付いただきますようお願いいたします。

貴社名：	媒体名：
所在地：〒	媒体種別：　新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ ラジオ・WEB・その他（　　　　　　）
担当者名：	掲載予定日：
E-mail アドレス：	参考 URL：
TEL：　　　　　FAX：	読者プレゼント招待券：　　組　　名分

プレゼントの受付・発送などは貴編集部にてお願いいたします。